



▲特別支援学校への検討がされている(旧)北小

(旧)北小跡地施設の利用は

答弁 = 特別支援学校で活用したい

播磨町公共施設有効利用促進検討委員会の提言に基づき、公募委員を含む運営協議会を立ち上げている。厳しい財政状況の下、当面施設整備、改築を行わずに利用方法を協議中です。この間、県教育委員会より特別支援学校として使用したい旨の申し入れがあり、町としては、運営協議会での協議を尊重しながら、また住民の理解を得ながら県の意向を受け入れ、(旧)播磨

答弁 清水町長

(旧)播磨北小跡地施設の利用については、その閉校時の経緯もあり住民の高い関心事です。現在公募委員を含む運営協議会で6月より協議中ですが、町は跡地施設をどのように活用するのか。



藤原 秀策

北小を障がい者福祉の拠点、住民交流の場として活用したい。

コミュニティバス導入は

本年度導入調査事業として予算も計上されているが、これを計画された基本的な考え方は、現在どの程度まで調査検討されているのか。

答弁 清水町長

「コミュニティバスの導入においては、交通不便地域を緩和し、地域間の移動手段の確保、円滑化を図ることや高齢者など移動が制約されている住民の日常生活の足を確保し、利便性の向上や社会参加を促進することを目指している。

答弁 木村理事

県加古川土木事務所との会議の中で継続して交渉することを確認している。町も土地所有者に交渉の場を持ってほしい旨の文書を最近送付した。また、町道古宮土山線については、現状を把握しており、土山駅南地区の周辺整備の中で道路改良を行う予定です。

北野添の道路工費

現在、基本計画・運行計画を策定し、ルート、バス停、車両などを調整し、実証運行に向けて鋭意協議中です。



▲教育活動の情報を保護者や地域と共有を(播磨南小学校)

魅力ある学校づくりを

答弁 = 第三者評価の実践で

「魅力ある学校づくり」や「特色ある学校づくり」は学習環境の説明や学校の取り組みのプロセスを透明化し、保護者や地域の方々にも教育活動の様子がよく分かるようにするべきです。学校の実質的な取り組みについての情報を保護者や地域と共有することで、はじめて学校教育の質も向上する。

答弁 松田教育長

地域と一体化した開かれた学校づくりは必要です。現在、様々な取り組みを行っており、「広報はりま」で年度当初に学校経営方針



永谷 修

住民クラブ

を明らかにし、年度末にはその評価を掲載しているのもその一つであり、オープンスクールを実施し、地域の皆さんに学校を見ていただいている。現在、力を入れているのは第三者評価の実践です。学校が行ってきた教育実践を評価していただき、「魅力ある学校づくり」につなげていく。

公明公正な事務執行を

百条調査特別委員会の結果報告から聞きます。①この事件は、関係した当時の3人の理事および1人の統括の法令などを遵守する意識の希薄さに起因するものであり、その責任は重大です。②最高責任者である町長の指導力も問われる。

答弁 清水町長

③5万1千円の報酬の支払いは、委員でないものに公金は支出できない。との報告に、如何するのか。

再発防止に努める

委員会の報告は十分尊重するが、証人として職員と民間人をそれぞれ一人調査し、証人2人の意見が大きく異なるのと少数意見報告から、公正かつ十分な調査なのか疑問に思う。入札参加者審査会については報告についての異論はない。①既に職員に対し、口頭での注意を行っており、今後の処置は考えていない。②これを契機に、職員の意識の向上を図り、再発防止に努める。③委員として二度の委員会にも出席をされ審査に当たっており、何ら問題はない。